

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年 6月 30日

事業所名 東京家政大学 児童発達支援事業所 わかくさ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0	一日10名の定員を午前と午後で5人ずつの小さい集団にして丁寧な療育を行っている。
	2	職員の配置数は適切である	100	0	規定以上の人数で療育にあたり、必要に応じて個別に対応できるよう配慮している。
	3	感染症対策は十分であるか	100	0	「来室したら手を洗う」が定着している。少しずつマスクを外す保護者も出ている。使用後の拭き掃除は引き続き徹底して行い、感染対策に努めている。
	4	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また子どもの活動に合わせた空間となっているか	100	0	遊びのコーナーを明確にし、何があるか見やすいよう、また片付けやすいように配置している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	100	0	利用者からの指摘、相談等があれば、全員で情報共有をし、改善に努めている。決定にいたるまでの経過がわかるように会議録に記録し、だれもが同じ方向で考えて決めたことを記録にのこしている。
	6	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100	0	研修費の予算を取り、希望の研修を受講できるようにしている。
	7	トラブルがあった際、情報を共有し再発防止につとめているか	100	0	大事にならなかった案件についても、ヒヤリハットの記入を徹底し、情報の共有化を図り、再発防止に努めている。
適切な支援の提供	8	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	100	0	保護者と時間調整を行いながら、話をする時間は十分に取って面談を行い、ふり
	9	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	75	25	発達検査等を全員しているわけではないので、今後に向けては標準化されたアセスメントツールの導入も考えていく。
	10	個別支援計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか	100	0	計画はより具体的に作成することを確認している。
	11	個別支援計画に沿った支援が行われているか	100	0	療育の前後に打ち合わせを設け、子どもの姿を共有している。個々の課題が共有できていたので、療育時の対応等も同じ方向で行っている。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100	0	担当が作成した計画を全員で確認し、具体的な方法はもちろん、修正等も事前に行っている。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100	0	月で活動計画を作り、保護者と共有している。様々な経験ができるようにバラエティ豊かな内容を考えている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	100	0	個別療育は年長児のみ行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	100	0	必ず、開始前には打ち合わせを行い、活動の内容、役割分担、個々の対応の仕方などを確認している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100	0	カンファレンスがとても重要と考え、一人ひとりの子どもの様子を振り返り、次回につなげるよう課題や復習する点を確認し、具体的な方法を考えている。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	その日に関わって子の情報に加え、カンファレンスで出た次回につながる事、また、他のスタッフが見た姿など、多方面からの記録を残している。
	18	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	100	0	定期的なモニタリングを行い、保護者のおもいを引きだしながらも、今の子どもの姿に合う個別支援計画を作成している。

関係機関や保護者との連携	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	62.5	37.5	サービス担当者会議が行われていないので参加する機会がない。
	20	関係機関と連携した支援を行っている	100	0	幼稚園・保育園を見学に行き園と情報共有を行うなど積極的に連携を図っている。
	21	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100	0	要請があれば入園する幼稚園・保育園へ情報提供をしながら、新しい環境への滑らかな移行につなげている。
	22	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100	0	就学支援シートの記入を保護者に勧め、情報共有し就学後の支援につながるようにしている。
	23	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100	0	専門機関主催の研修の積極的な受講を行っている。併用している事業所との連携がなかなか取れないので、方法を模索している。
	24	関係機関での会議等へ積極的に参加している	100	0	区主催による、発達ネットや事業者連絡会に積極的に参加し情報共有に努めている
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	保護者とのコミュニケーションを積極的に取りながら、意思疎通に努め信頼関係の構築を図っている。相談の希望があれば速やかに対応し、相談の機会を作っている。
	26	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	100	0	保護者会等の日程を年間で周知し、参加を促している。また、公認心理師によるペアトレの講演会を実施。今年度においては、3回シリーズで子どもとのより良いかわり方をスタッフとともに学ぶ機会を作る会を企画している。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	契約時には、重要事項説明書の読み合わせをしながら、丁寧に説明を行っている。書類は持ち帰り再読していただき、不明点は再度説明する旨をお知らせしている。
保護者への説明責任等	32	個人情報の取扱いに十分注意している	100	0	鍵のかかる書庫に個人情報を保管している。施設外の持ち出しは一切していない。
	33	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	一人ひとりの様子を細かく把握し、その子にあった対応を考え、スタッフ間で共有している。
	34	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100	0	感染症対策として、嘔吐下痢の処理の仕方（感染防止のキットを作成し常備している）をわかりやすいように作成し掲示することで正しく処理できるようにしている。
非常時等の対応	35	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100	0	4月はスタッフ間での机上訓練（避難のしかた、役割の確認など）、5月には通報訓練を行い、6月からは避難訓練を毎月行い、訓練に当たったグループが避難訓練をしている。実施後は、訓練記録を作成すると共に、確認することや改善することを見出し次月につなげている。
	36	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	ヒヤリハット用の紙を作成し、何かあったらすぐに記入しスタッフ全員で情報を共有し再発防止に努めている。